

## 国際学部

学科	名前	フリガナ	ページ
国際学科	出羽 尚	イズハ タカシ	54
	木村 崇是	キムラ タカユキ	55
	栗原 俊輔	クリハラ シュンスケ	56
	阪本 公美子	サカモト クミコ	57
	清水 奈名子	シミズ ナナコ	58
	申 恵媛	シン ヒェウオン	59
	スエヨシ アナ	スエヨシ アナ	60
	SUGIT ARJON	スギット アルジョン	61
	高橋 若菜	タカハシ ワカナ	62
	戚 傑	チー ジェ	63
	中村 真	ナカムラ マコト	64
	藤井 広重	フジイ ヒロシゲ	65
	槇野 佳奈子	マキノ カナコ	66
	松井 貴子	マツイ タカコ	67
	松村 史紀	マツムラ フミノリ	68
	マリー ケオマノータム	マリー ケオマノータム	69
	吉田 一彦	ヨシダ カズヒコ	70
	米山 正文	ヨネヤマ マサフミ	71
	リーペレス ファピオ	リーペレス ファピオ	72



## 国際学科

**分野** 西洋美術史**研究テーマ** ・イギリス風景画の研究  
・18-19世紀の挿絵版画の研究  
・エンブレムの研究**キーワード** イギリス美術, 挿絵版画, エンブレム**所属学会等** 美術史学会、美学会、イギリスロマン派学会**特記事項** —

URL: -

TEL: 028-649-5221

Mail: izuha[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

## 研究概要

イギリス美術史、特にターナーを中心とした18-19世紀の風景画研究。美術史の基礎である様式分析を核にしつつ、作品制作に近接する美学、文学、産業、社会といった問題との関連も視座に研究を進めている。

## 教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

文化・美術を研究する際の基本的な方法論を身に着けることを目標とし、そのために必要な資料収集整理、文献調査、フィールド・ワーク等の実践を重視した教育を行っている。

## 今後の展望

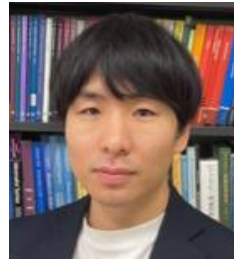
将来的には、学生の研究活動を、地域社会の貢献に役立てる可能性についても考えたい。

## 社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

学部附属の多文化公共圏センターの事業を通じた地域貢献活動のほか、高校での出前講座を実施している。



## 国際学科

**分野** 言語学, 第二言語習得**研究テーマ** ・第二言語習得のメカニズムの解明  
・英語や日本語の文法理論の構築**キーワード** 理論言語学, 第二言語習得(獲得), 言語獲得, 文法**所属学会等** 日本第二言語習得学会, 言語科学会, 日本英文学会**特記事項** -

URL: -

Mail: tkmr32[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

## 研究概要

英語や日本語の文法の研究を通して, 人間言語の文法における普遍的な性質と言語間の差異を明らかにすることを目指しています。また, そうした基盤研究に基づき, 第二言語の習得ではどのような項目が困難もしくは容易であるのかという問題の探究も行なっています。

## 教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

研究については, 上記の内容を個人または他大学の研究者と共同でプロジェクトを進めています。現在は, ケンブリッジ大学の研究者を中心に, 上海交通大学, 中央大学の研究者と英語と日本語や中国語をミックスした人工言語を作って第二言語の獲得を研究する国際共同プロジェクトを進めています。また, 東京大学のメンバーと一緒に子どもの第二言語の発話データ分析も行なっています。その他, 様々な大学の研究者と第二言語の文法習得に関する共同研究を行なっています。研究結果から英語を中心とする教育現場への示唆も行なっていきたいと考えています。

教育活動については, ゼミではグループ研究を行い, 興味深い研究成果が得られた場合には, 積極的に国際学会で発表することを推奨し, 丁寧に指導しています。海外の大学との合同発表会も計画しています。

## 今後の展望

今後の展望の一つとして, 第二言語の文法の習得研究からの知見を応用し, どのような文法指導をしたら的確な知識の習得に至るのかという点についても調べて行きたいと思っています。

## 社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

国際ジャーナルや国際学会の査読者のほか, 学会の運営委員として, 学会運営のほか, 学生や若手研究者の育成活動にも協力しています。また, 第二言語研究の成果は, 主に英語教育関係の人たちをはじめとする方々へ, 様々な形で届けたいと考えています。最近では, アウトリーチ活動の一環として, 言語学フェス2024という非専門家も多数集まるオープンな発表会で第二言語研究の成果について専門外のオーディエンスに向けて話しました。さらに, 専門知識がなくても卒論レベルの研究ができるようになるための入門書も執筆中です。



## 国際学科

**分野** 国際開発（人材育成）

**研究テーマ**

- ・ガバナンスと市民社会
- ・スリランカのプランテーション農園コミュニティ
- ・コミュニティ開発
- ・人材育成とキャパシティ・デベロップメント
- ・プロジェクト・マネジement



**キーワード** スリランカ, 紅茶, NGO, コミュニティ開発, ファシリテーション, 緊急援助と復興・開発, ナッジ, おもてなし

**所属学会等** 国際開発学会、南アジア学会、日本NPO学会、行動経済学会

**特記事項** —

URL: [https://www.instagram.com/uu\\_tea\\_srilanka/](https://www.instagram.com/uu_tea_srilanka/)  
Mail: shunsuke[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5193

### 研究概要

-国際開発： 国際開発におけるガバナンスと組織開発、コミュニティ開発をテーマに、おもにスリランカを事例にし、市民レベルでの国際協力への参加について、セイロンティーを通じた現地労働者コミュニティと日本、特に紅茶消費量全国上位である宇都宮市を例に取り、効果的なつながり方を、行動経済学の要素も取り入れ実践・研究している。

-市民社会と行動経済学： 国内では市民社会の活性化を目指すべく、学生任意団体「宇都宮おもてなし隊」を立ち上げ、JR東日本と協力し宇都宮駅を利用するインバウンドへのおもてなし活動、宇都宮車掌区とのインバウンド客の列車緊急避難誘導の方法を検討・研究している。

1)国際開発： スリランカで13年間勤務した経験と人脈をもとに、定期的な現地訪問による現地での実証研究、コミュニティや関係者、現地の大学（Peradeniya University、Open University）の研究者と交流をはじめ、行動経済学の様々な手法を現地コミュニティの抱える問題への応用を実証・実践している。スリランカの紅茶プランテーション農園コミュニティとの交流と現地の問題解決を行うために、「UU-TEA」プロジェクトを立ち上げ、学生と現地のコミュニティ、特に同世代の青年層との交流を促進しながら、現地が抱える問題を話し合い、解決策を模索している。同時にUU-TEAの活動を日本国内、世界に発信する活動も学生が中心になり実践しており、Instagramを開設し、日本語と英語で定期的に現地の状況を発信している。

2)行動経済学と市民社会： 宇都宮駅でのおもてなし活動を通して、インバウンドの視点からの街の魅力の再発見と発信、日本語の分からない鉄道利用者への効果的な緊急避難誘導を学生も巻き込み、定期的にJR東日本関係者と協議している。

### 教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

授業におけるアクティブ・ラーニングを意識した教育の実践。学生を巻き込んだ、スリランカの紅茶プランテーション農園コミュニティとの交流を通じた、国際開発・国際協力の体系的な理解の促進。

### 今後の展望

行動経済学の手法を取り入れ、現地の貧困削減、住環境改善、教育改善を試みるとともに、日本国内での支援者・理解者の拡大を行っていく。

### 社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

- 高大連携： 栃木県立佐野高校（SGH校）との、スリランカを題材にした、高校生による国際協力の在り方
- UU-TEA： 宇都宮市役所広報広聴課との連携。紅茶消費量全国上位である宇都宮市プロモーションの一環として、UU-TEAの活動の広報・発信
- JR東日本宇都宮駅・宇都宮車掌区： 駅の魅力の向上（学生によるおもてなし活動）、インバウンド客の緊急避難誘導の検討等
- 宇都宮市おもてなし推進員





## 国際学科

**分野** アフリカ研究、発展論

**研究テーマ**

- ・タンザニアにおける社会開発と文化、内発的発展
- ・タンザニアにおける母子保健とジェンダー（女性世帯主世帯、男女分業）
- ・タンザニアにおける薬用・食用植物に関する在来知の地域還元



**キーワード** タンザニア, 社会開発と文化, 女性と子ども, 在来資源・在来知の地域還元, 音楽, 内発的発展

**所属学会等** 日本アフリカ学会 国際開発学会

**特記事項** 地域の資源や知識を搾取するのではなく、地域に還元できる形での連携を歓迎します。

URL: [http://d.hatena.ne.jp/Sakamoto\\_Kumiko/20110401/1301657759](http://d.hatena.ne.jp/Sakamoto_Kumiko/20110401/1301657759)

TEL: 028-649-5180

Mail: [ksaka\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:ksaka[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

### 研究概要

- タンザニアにおける社会開発と文化、内発的発展  
ユニセフと国連開発計画のタンザニア事務所勤務経験の中で、国際機関が各国の政策に影響しすすめる「社会開発」は、必ずしもコミュニティレベルで共有できていないものではないことを実感しました。社会開発と地域文化はどのようにかかわっているのか、内発的発展の実現方法など、「開発」が「遅れている」と認識されている地域に焦点を当て、博士論文でテーマとし、今も関心を持ち続けています。
- タンザニアにおける母子保健とジェンダー（母系的社会、女性世帯主世帯、男女分業）  
女性と子どもの健康、母系的社会、女性の中でもシングルで家計を切り盛りしている女性世帯主世帯、そして男女分業について、研究してきました。

### 教育・研究活動の紹介（特徴と強み等）

- 国際機関での実務経験、タンザニア農村での調査経験、社会の構造的理解が、教育・研究活動の特徴と強みです。
- 基盤教育では、「アフリカ学入門」、専門科目では「アフリカ論」や「途上国経済発展論」を担当しています。とくに「アフリカ学入門」では、アフリカの女性の労働体験（糶摺りや水くみ）、タンザニアの村民になりきって演技するロール・プレー、アフリカ関連イベントの参加、アフリカからの留学生やアフリカを体験した先輩との交流など、アクティブ・ラーニングを重視しています。
- 研究は、タンザニアの中でも比較的発展が「遅れている」と認識されている地域の「豊かさ」（相互扶助、祭りや芸能、地域資源・在来知）に焦点を当て、新たな価値観に基づく社会のあり方や、内発的発展を模索しています。



### 今後の展望

- タンザニアにおける薬用・食用植物に関する在来知の地域還元  
タンザニアの人々は、地元の植物資源に関する薬用・食用知識が豊富です。それらが継承され、人々の健康や栄養に還元できるように、研究をすすめています。

### 社会貢献等

（社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等）

- 地域の資源や知識を搾取するのではなく、地域に還元できる形での連携を歓迎します。
- 例えば、タンザニア中部ドドマ州で活動してきたNGOは、地域での利用を主眼にバオバブ油、ロゼーラ、モリンガなどを開発・普及してきましたが、バオバブ油に関する研究など求められているとともに、日本でもフェア・トレード的につながる可能性があるかもしれません。
- 音楽芸能（太鼓と踊りと歌）グループのプロモーションへの協力など、大歓迎です。
- タンザニア農村が舞台で、国際協力・植林・太鼓をテーマとした絵本を、クラウドファンディングを通じて多くの方々の応援を得て出版し、タンザニアに贈呈予定です。

3 すべての人に健康と福祉を

5 ジェンダー平等を実現しよう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう



国際学科

**分野** 国際関係論・国際機構論・平和研究

**研究テーマ**

- ・国連安全保障体制における武力紛争下の一般市民の保護について
- ・東電福島原発事故による栃木県の被災問題について
- ・原子力エネルギー利用をめぐる国際政治について



**キーワード** 国連安全保障体制, 人間の安全保障, 原発震災の被害と人権問題

**所属学会等** 国際法学会・国際政治学会・日本平和学会

**特記事項** 市民団体の勉強会等で講師を担当することが可能です

URL: <http://researchmap.jp/nanakoshimizu>

TEL: 028-649-5170

Mail: [nshimizu\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:nshimizu[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

研究概要

主に国際連合の安全保障体制について研究しています。国際関係を考察する際に、国際連合のような制度に注目して、武力紛争の際に最も犠牲となる割合の高い一般市民をどのように保護していくかについて考察してきました。

2011年の原発震災後は、人間の安全保障と原発事故被害の関係についても研究を続けています。いずれの研究課題についても共通する「問い」は、戦争や原発事故のような国家的危機に際して、なぜ政府は一般市民の保護を優先せず、被害を切り捨ててしまうのか、という問題です。「国家は国民を守らない」という問題が過去から現在にかけて続いていることを学ぶことによって、現代社会の何が問題であり、どう改善していくのか、一人ひとりの市民に何ができるのかについて、初めて考えることができると考えています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

「戦争と平和」に関する問題について考える授業の一環として、宇都宮市内の戦争遺跡を訪問するスタディーツアーを、市民団体の協力のもとに実施しています。また東電福島原発事故が提起した問題を、宇都宮大学にある5つの学部から教員が集まり、文系理系を越えて考える「3.11と学問の不確かさ」という授業も、2012年以降毎年続けています。これらの授業の際に、研究成果である原発事故の被災状況等を報告するシンポジウムや勉強会を開催し、一般公開もしてきました。さらに戦争の被害であれ、原発事故の被害であれ、当事者の証言を読む作業を授業に取り入れています。公の歴史の中では記録されにくい被害者の声を聴きとるために必要であると考えているからです。

今後の展望

原発震災から時間が経過するにつれて、事故と被害の風化が進んでいます。しかし残念ながら、原発事故の終息は見通すことができず、現在も被害が続いていることを、教育と研究の両分野で今後も発信していきたいと思えます。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

「安全保障関連法案(安保法制)」「集団的自衛権」「核抑止論」「テロ防止」など、安全保障に関するキーワードが、日本のニュースを騒がせる時代になっています。これらの言葉の意味は何であるのか、どのような主体がいかなる目的でこれらの言葉を使っているのか、実際に実施されてきた政策や国際的制度和どのような関係があるのかなどについて、地域の市民団体やサークル活動関係者、公民館等での勉強会や講演会の講師を務めてきました。

さらに、東電福島原発事故後に栃木県に避難していらした方々、そして栃木県北地域において放射能汚染問題に苦しんでいる被災者の方々の聞き取り調査を行い、証言集にまとめて大学の教材としているほか、メディアへの情報発信を続けています。

4 質の高い教育を  
みんなに

10 人や国の不平等  
をなくそう

11 住み続けられる  
まちづくりを

16 平和と公正を  
すべての人に

国際学科

**分野** 社会学

**研究テーマ** ・地域社会と移動  
・多文化共生  
・エスニック・タウン

**キーワード** 移民, エスニシティ, 多文化共生, 都市, 地域社会, 観光

**所属学会等** 日本社会学会、関東社会学会、日本都市社会学会、関東都市学会

**特記事項** 2022年4月に宇都宮大学に着任いたしました。



URL: <https://researchmap.jp/shyewon>  
Mail: hshin[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

社会学を軸に、日本におけるエスニック空間の研究に取り組んでいます。エスニック・マイノリティの集住地域のみならず、ビジネスや表象等を含め多様な形でのエスニシティの空間的集中が見られる地域とそこで織りなされる社会関係に着目し、地域社会と移動、エスニシティをめぐる研究を目指しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

教育活動については、主に社会学の観点から多文化共生に関する知識を身につけ、実証的に研究する方法を習得できる教育を目指します。そのための素地として、語学教育を通じた外国語能力の強化、異文化・社会理解の促進も図っていきます。また、自身の経験を活かし、多様なバックグラウンドをもつ学生の相談に応じたいと考えています。

研究活動については、これまで主に、日本有数の外国人集住地域である新宿区大久保地域に形成されたエスニックな観光地「新大久保」を事例に研究を進めてきました。「外国人住民」の急速な増加に見られるような居住空間としての多文化化のみならず、エスニック財を主要観光資源とする観光地化をも経験した地域において、これにかかわる人々が織りなす関係はどのように変化したのか。また、そのことは移動をキーワードに今日の「地域社会」を考えると、どのような示唆を与えてくれるのか。これらの疑問に答えることで、移民・エスニシティ研究と都市・地域研究の(再)接続を目指しました。

今後の展望

今後の研究の展望としては、大きく二つの方向性を目指しています。第一に、これまでの研究内容を引き継ぎ、必ずしも集住に限定されないエスニック空間の研究を進めることです。日本の事例を中心に、国際比較研究としての発展、国内の研究蓄積との接続の両方を目指しています。第二に、これまでのエスニック空間の研究を基盤としながら、移動を前提とする「地域社会」を捉えるための分析枠組みを発展させていくことです。居住(定住)に加え、より多様な形で地域とかわるようになった人々からなる「社会」をいかに捉えることができるのかを、エスニック空間に限らず研究していきたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

研究に関連の深い自治体や団体の委員、参加学会の編集委員・企画委員を務める他、学術翻訳・通訳にも貢献しています。



4 質の高い教育を  
みんなに

8 働きがいも  
経済成長も

10 人や国の不平等を  
なくそう

16 平和と公正を  
すべての人に

# 国際学部 准教授 スエヨシ アナ

## 国際学科

**分野** ラテンアメリカ論

**研究テーマ**

- ・ラテンアメリカ及びカリブ海沿岸における長期経済成長と財政政策
- ・アジア太平洋諸国における高等教育政策と雇用
- ・ペルー・日本における日系ペルー人コミュニティ



**キーワード** ラテンアメリカ経済, 高等教育と雇用, 日系人社会

**所属学会等** LASA, ALADAA, EAJS, 日本イスペインヤ学会

**特記事項** 特になし

URL:  
Mail: sueyoshi[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5175

### 研究概要

#### ラテンアメリカ及びカリブ海沿岸における長期経済成長と財政政策

ラテンアメリカ諸国の長期的経済成長の源泉としての財政政策の意義を内性的経済成長理論の枠組みでダイナミックパネルデータ分析を用いて検証するものである。

#### アジア太平洋諸国における高等教育政策と雇用

日本・マレーシア・メキシコにおける高等教育政策及び雇用に関する検討で、特に雇用に対する高等教育政策の影響を明確にすることである。そのため、関連する3つの領域(行政、企業、教育機関)に調査を実施することになった。

#### 日本・ペルーにおける日系ペルー人コミュニティ

日本からペルーへ帰国した子供たちは、日本での生活と母国ペルーでの生活を経済的な面や道徳的な面を比較しながら、生活している。ペルーへ帰国した子供たちの母国での様子を、両国での生活に対するかれらの評価や意見などを比較しながら検討している。

### 教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

様々な意味で多様性(学際的・地理的)を参考にしながら、外国の大学の教員と連携し研究を行っている。

### 今後の展望

ペルーのランバイエケ州における1899年から第二次大戦前まで日系人史について資料収集し、かれらの大農園の労働者・自営業者としての活躍を検討し、経済的な面でのペルー社会への影響を明らかにする。

### 社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

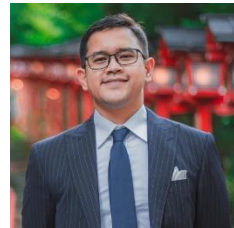
日本では、「ラテンアメリカは遠いところ」という印象が持たれる傾向があります。私は、一般の方にもラテンアメリカ世界を幅広く紹介し、日本とラテンアメリカ及びカリブ海沿岸諸国との距離を縮めていきたいと考えています。具体的には、長い歴史を持つ日本人移民とかれらの子孫は、日本・ペルー両国をつないでいますので、日本における日系人社会のことをペルーへ伝え、逆に、ペルーにおける日系人社会のことを日本へ伝える活動などを推進していきたいと思えます。





**分野** Politics and International Relations in Southeast Asia

**研究テーマ** Political Reconstruction in Post-conflict Indonesia: Sustaining Peace. Militarization of Food Security Political Parties Development in post-Democratic Indonesia



**キーワード** Post-conflict region, peace and conflict studies, democratization, civil-military relations, human security.

**所属学会等** グローバル・ガバナンス学会、国際開発学会、インドネシア研究懇話会、日本国際政治学会、人間の安全保障学会

**特記事項** All classes conducted in English and incorporating real-world examples to elucidate complex concepts.

URL: [https://researcher.utsunomiya-u.ac.jp/html/100003947\\_ja.html](https://researcher.utsunomiya-u.ac.jp/html/100003947_ja.html)

TEL: 028-649-5217

Mail: sugit[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

## 研究概要

My previous research tends to examine the post-conflict political development. I am currently writing a project related to the illiberal peacebuilding in Indonesia. This project delves into the paradoxical dynamics of peace sustainability in Indonesia. Most of my current research applies to the post-conflict region, democratization, state violence, security, political dynasty, and civil-military relations in the Southeast Asia region and specifically in Indonesia.



## 教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

Through my academic pursuits and research activities, I strive to contribute meaningful insights and understanding to the field of political science, particularly in the context of conflict resolution and peacebuilding in Southeast Asia and Indonesia. My work not only adds to the academic discourse but also serves as a guide for policymakers and practitioners engaged in addressing the challenges of post-conflict societies.

## 今後の展望

Building upon the foundation of my current projects, my future research endeavors aim to expand the understanding of political dynamics in post-conflict and evolving democratic settings, particularly focusing on Indonesia. One of my forthcoming projects will delve deeper into the nuances of "Political Reconstruction in Post-conflict Indonesia: The Cost of Sustaining Peace". Furthermore, I am interested in expanding the scope of my research on "Political Parties Development in post-Democratic Consolidation Indonesia".

## 社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

Over the past few years, my engagement with various global initiatives and forums has significantly contributed to addressing some of the most pressing challenges faced by societies worldwide. In 2023, I was invited as an International Expert for the European Union-financed project "Coping with Climate Change as a Cause of Conflict in Coast Communities of West Africa" (C7-West Africa). I delivered three days intense seminar and training to the middle rank officers at the Nigerian law enforcement agencies in Port Harcourt, Nigeria, offering expertise on the intricate relationship between climate change and conflict.





**分野** 環境政治学（地球環境政治・比較環境政治）

**研究テーマ** ・欧州とアジアのサーキュラーエコノミー／循環型社会  
・スウェーデンと日本のカーボンニュートラル戦略  
・環境被害者の記録継承（原発震災、足尾銅山など）

**キーワード** スウェーデン, EU, 気候危機とカーボンニュートラル, 循環型社会, ジェンダー, 越境大気汚染, 原発震災, 足尾銅山

**所属学会等** 日本国際政治学会、環境経済・政策学会、廃棄物資源循環学会、国際開発学会

**特記事項** 中央環境審議会など国や地方自治体で各種委員もつとめており、市民団体や行政の方々とも協働しています。市民団体・企業等向けに講演も行っています。



URL: <https://cmps.utsunomiya-u.ac.jp/uu3s-project/>

TEL:028-649-5174

Mail: wakana[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

## 研究概要

環境問題は、本質的には政治問題であると捉え、持続可能な社会への変革を可能とする政治・ガバナンスのあり方を探求しています。国際関係論や比較政治、環境政治学や環境社会学などから編み出した理論的枠組をもとに、複数の事例研究や国際比較を進めています。学際的にデータを渉猟し、現場の声を大切に、時には国際的・学際的共同研究チーム、また学生や市民の方々とともに、数多くのフィールド研究や実践を行ってきました。近年は気候危機への関心を強め、スウェーデンとの国際的・学際的共同研究も進めています。

## 教育・研究活動の紹介 （特徴と強み等）

- 環境省外郭の研究機関での実務経験、イギリスの留学経験、スウェーデンでの在外研究、カナダでの子育て+研究経験、アジア各国での調査など、豊かな国際経験があります。
- 学生たちとともに、大学とNPO、市民などとのパートナーシップを創出し、NGOの再生可能エネルギー教育や、里山保全や市民農園を手伝っています。また、市民向けのSDGs映画上映会とワークショップを重ねて行い、相互学習を通して、問題構造の把握や具体的な行動のアイデアについて、見える化や提言も行っています。
- 原発震災から11年経った今日も、生態学的・社会的・経済的にも弱い立場にある母子を含め、万単位の避難者がおられ、今なお厳しい立場に置かれ続けています。行政や市民団体とともに支援活動からはじめ、時には行政や裁判へも協力しつつ、不可視化されそうな被害の状況を記録継承し、問題提起を続けています。この関係から過去の公害事件にも目を向けて、足尾・渡良瀬での環境教育も進めています。

## 今後の展望

わかりやすい情報公開、報道の自由度の高さ、地方分権、開かれた政策形成プロセスと、様々な次元での市民参加、女性・若者をはじめ多様な主体の声の反映などが、総じて人に優しく複合的効果の高い環境政策作りを可能にすることが、これまでの研究からわかってきました。環境被害や人権侵害を繰り返さずに、カーボンニュートラルな社会へと変革する方法はたくさんあります。国際・学際的な共同研究や、NGOや学生、市民の方々等との協働を通じて、持続可能な社会への変革に向けて、研究、教育、社会実践を続けていきます。

## 社会貢献等 （社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等）

気候危機とカーボンニュートラル、再生可能エネルギー、循環型社会、原発避難生活史、足尾、越境大気汚染など、幅広い研究や活動経験をもとに、市民や企業、行政、学校向けの講演活動を行ってきました。SDGs映画上映会、3Cキッズカレッジなど、NPOや学生、海外研究者との共同企画を通じた発信も、今後も続けていきます。

**分野** 教育社会学 外国語教育

**研究テーマ** ・多文化主義・多文化教育に関する研究  
・学校教育・教師教育に関する研究  
・言語教育に関する研究

**キーワード** グローバリゼーション, 多文化教育, 言語教育,  
クリティカル・シンキング

**所属学会等** American Education Association (アメリカ教育学会)  
日本教育社会学会

**特記事項** —



URL: [www.utsunomiya-u.ac.jp/scholarlist/installation/dep4/chi\\_je.php](http://www.utsunomiya-u.ac.jp/scholarlist/installation/dep4/chi_je.php)

TEL: 028-649-5237

Mail: [jqj\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:jqj[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

### 研究概要

ポスト構造主義・ポスト植民主義の観点から学校教育・言語教育に関する研究・分析を行っています。具体的には、社会と教育がどのようにして人間を形成し、社会の中で、特に教育を通して形成された人間の価値基準が再び社会や教育に作用するプロセスについて論理と実証の両面から検証を試みています。その一環として近年、グローバリゼーションと多文化教育の在り方に関する研究も行っています。

### 教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

#### 【教育活動】

教育活動において常に、学生の論理的思考力と創造性を引き出すことを重視して、思考・研究能力を養う訓練に力点を置いた教育実践を行っております。固定観念を持たずに、積極的に問題提起することを学生に促し、提起した問題については徹底した論理的思考と実践的探求をあきらめことなく続けられるように繰り返し訓練することに心掛けています。また、異なる文化をもつ人々とコミュニケーションをとる際に必要な能力と態度を養うことも重要な教育目標と考えて授業、研究指導等を行っています。さらに、調査方法など研究の方法論に関する指導や論文作成の技法に関する指導も行います。

#### 【研究活動】

多文化教育、言語教育、学校教育やグローバリゼーションを中心に国内外の学者との共同研究を行っています。現在取り組んでいる研究課題の一つは、ポスト・コロニアルイズム理論に基づいた、人の移動とグローバリゼーションに関する研究です。ポスト・コロニアルイズムの研究では、文化の独自性と各文化圏の歴史的特殊性に注目して、経済が急速にグローバル化している今日の人の移動と旧植民地からヨーロッパ諸国への移住との相違点の解明に努めて研究を進めております。また、多文化社会に関する研究の一環として、多くの移民が流入している先進国という「メトロポリス」における自己と他者をカテゴリー化する仕組みとその変遷に関する考察を続けております。

### 今後の展望

グローバル化・ボーダレス化が進む今日において、異なる民族や文化背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方と、その実現を確固たるものにするための教育のあり方を探求することがますます必要となって来ていると思います。多文化主義、多文化共生、国際比較教育や外国人児童生徒教育などのテーマについて引き続き関心を持って取り組んでいきたいと思っております。

### 社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

日本の社会、教育について、積極的に海外に発信すると同時に、海外の研究手法・教育実践を日本に紹介することにも心掛けていきたいと思っております。また、講演、市民公開講座や高校での出前講座も実施しています。大学の社会的責任を十分自覚して社会や地域に貢献できるよう今後も活動していきます。





## 国際学科

**分野** 心理学（感情心理学）**研究テーマ**

- ・表情を通じた感情コミュニケーション
- ・表情と感情の文化差
- ・共感と排斥

**キーワード** 感情, コミュニケーション, 表情, 文化, 共感, 排斥**所属学会等** 日本感情心理学会、日本心理学会、日本社会心理学会、日本顔学会、ISRE(International Society for Research on Emotion)**特記事項** 感情に注目して私たちの生活を振り返ってみましょう。

URL: -

Mail: nakamura[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

## 研究概要

感情心理学、感情とコミュニケーションの心理学について研究しています。特に、顔や表情を通じた感情のコミュニケーション、そのようなコミュニケーションにおける表情と文脈の重要性、感情のあらわし方の文化差に興味を持っています。また、近年は、法や倫理、国際関係、文学などにおける感情の役割にも関心が広がっており、差別やヘイトスピーチのような排斥的行動の背景にある心理的プロセスと感情の関係について、研究を進めています。

## 教育・研究活動の紹介（特徴と強み等）

心理学的研究法・実験計画法に基づき、主に対面の対人コミュニケーション場面における表情を通じた感情の判断について分析するための調査と実験を行ってきました。特に、感情の判断に影響を与える文脈情報として、感情表出場面の公私の度合い、表出者の性別、国籍などを取り上げました。近年は、排斥に関わる心理学的プロセスにおいて、感情がどのような役割を果たしているかという観点から、主に、ウェブ調査の手法で分析を行っています。

## 今後の展望

顔や表情に焦点を当てた感情とコミュニケーションに関する研究を継続しつつ、より広い、社会的文脈における感情に関わる現象について研究を進めたいと考えています。共感と排斥、感情が排斥行動にどのように結びついているかという問題をさらに検討しつつ、社会的共生に関わる課題や問題を解明し、対応の可能性について考えたいと思います。

## 社会貢献等（社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等）

感情やコミュニケーションに関わるテーマの講演や講座の講師を務めてきました。また、多文化共生の取り組みについて検討するためには、偏見や差別を含む、排斥の背景にある心理学的な問題を理解しておくことが重要です。このような観点から、自治体、教育機関、企業などにおける教育活動を支援することができます。





国際学科 藤井研究室

分野 国際関係法、国際人権論、平和構築論、アフリカ政治

研究テーマ ・アフリカにおける人権保障と平和構築
・国際的な刑事裁判所の課題と展望
・国際人権、平和構築ワークショップの地域での実践

キーワード 国際刑事裁判所、紛争、アフリカ連合、人権ワークショップ

所属学会等 国際人権法学会、人間の安全保障学会、日本国際政治学会、日本平和学会、アフリカ学会、日本国際連合学会、グローバル・ガバナンス学会

特記事項 国際機関、NGO、政府機関等での実務経験を生かし、理論と実務の架橋となるような学際的な研究アプローチを試みています。



URL: https://www.fujiih.com/(研究室の活動) https://researchmap.jp/fujiih(研究業績)
Mail: fujiih [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

アフリカと法をテーマとした研究に取り組んでいます。とりわけ、アフリカにおける紛争後の平和構築において、国際刑事裁判所などの国際的な裁判所の活動や期待されている“役割”が、現地社会や国連平和維持活動など他の国際的なアクターに対し、如何なる影響を与えているのかについて理論と事例研究を中心に探究しています。



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

国際的なルールが形成され発展してきた背景を捉えることで、現在の社会が抱える課題に対し、私たちはどう向き合うべきか議論、考察します。講義では、インタラクティブな講義を通し、学生の発信力の育成にも力を入れ、具体的には国際人道法の模擬裁判大会やロールプレイ大会への出場を指導し、学生とともに日本代表を目指しています。



今後の展望

生まれは滋賀県の長浜です。子ども頃は「国際」とは無縁でした。だからこそ、まだまだ国際社会を身近に感じづらい学生の気持ちも少しわかるような気がしています。限られた経験かもしれませんが、私がこれまでに国際的な場で働いて感じたことを学生に伝え、自らのキャリアを考えるきっかけになればと願っています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

- ・2021年 第9回若手難民研究者奨励賞
・2020年、2021年度宇都宮大学SDGs推進奨励賞「子どもの権利を通した平和・公正の達成に向けて」(研究室)
・2020年、2021年宇都宮大学SDGsグローバルウィークを企画 「コロナ禍のもと、国際人権について考える」(2021)
・第17回、第18回 宇都宮大学ベストレクチャー賞 基盤教育科目：国際化と人権
・2019年12月 宇都宮市主催 大学生によるまちづくり提案発表会2019 第1位「あらゆる場面においても、子どもの権利保障に向けた市民参加型アプローチの実践」(研究室)



国際学科

分野 フランス文学・思想・文化

研究テーマ ・黎明期の写真技術と写真批評史  
・19世紀フランスの科学普及活動における科学と非科学

キーワード 19世紀フランス, 写真史, 科学普及活動, 心霊主義

所属学会等 日本フランス語フランス文学会  
日本科学史学会

特記事項 2019年4月に宇都宮大学に着任いたしました。



URL: [https://researchmap.jp/kanako\\_makino](https://researchmap.jp/kanako_makino)  
Mail: 社会共創促進センターにご連絡ください。

研究概要

19世紀のフランス文学・思想・文化を研究対象としています。19世紀フランスにおいて、当時新生の技術であった写真が「科学」と「芸術」の関係の中でいかに受け入れられていったのかという点、そして同時代の科学普及活動の中で「科学」と「非科学」の境界はいかに捉えられていたのかという点について、当時の出版物を中心に研究しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

教育活動においては、文献を自力で読み進められる力を養うことを目指しています。自分自身で考え、自らの言葉で語ること、そして他人の言葉にも耳を傾けて違いを尊重し合うことを、授業では大事にしたいと考えています。2011年から2016年までの5年間、フランスの大学で外国人教員として教壇に立ちながら現地で博士論文を提出した経験も踏まえ、海外留学や異文化交流などに関する相談にも乗りたいと思っています。

研究活動においては、写真や鉄道といった数々の新技術が登場し急速に普及していった19世紀のフランスに着目しており、同時代の「科学普及活動」を主要な研究テーマとしています。専門的で高度な科学を人々に広く「開いて」いこうとする科学普及活動の最も初期の形態を分析することで、今日ますます重要となっている、難解な科学に対する一般人からの理解や共感をいかに呼び起こすことができるのかという点についても解明したいと思っています。

今後の展望

私が手掛けている研究は19世紀のフランスという過去の事象を主に分析するものですが、特定の時代や地域を超えた普遍性をそこに見出そうとすることで、今日の科学と人々をめぐる諸問題についても、新たな視点を引き出すことを目標としています。

社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

4 質の高い教育を  
みんなに

3 すべての人に  
健康と福祉を

10 人や国の不平等  
をなくそう

# 国際学部 教授

まつい たかこ  
**松井 貴子**

## 国際学科

**分野** 日本文化論・身体文化学

**研究テーマ**

- ・日本の近代化と伝統文化の継承
- ・日本の国際化と多文化
- ・日本の身体技法と機能解剖学

**キーワード** 文化の異質性と同質性、俳句の国際化、季節感の共有、能、身体技法、ボディメソッド、声、呼吸、姿勢、日本語

**所属学会等** 日本比較文学会、日本近代文学会、日本文芸学会、俳文学会、ヨーロッパ日本研究協会、国際融合文化学会、比較舞踊学会、国際ダンス医科学会、美術史学会、明治美術学会

**特記事項** 生まれ育った日本への思いと、海外への関心が、私の研究と教育の原点です。



URL: -

Mail: mtaka[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

### 研究概要



西洋受容による近代化という視点から西洋美術に影響を受けた俳句の写生概念の変容について、日欧の資料を駆使して研究し、高く評価されました。（日本比較文学会賞受賞2003年）ハワイとアラスカの俳句から、季節感の異質性と同質性を考え始め、近年は、チェコの俳句会に出会って、句会を通して交流を重ね、四季のある中欧と日本の季節感をどのように共有できるか模索しています。身体文化研究として、能と日本語に注目し、日本語の構音の特徴を機能解剖学によって分析する研究を進めています。

### 教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

多文化の視野で日本を意識し、考察すること、自分の言葉で日本を発信することを目標としています。授業をしている講堂は、登録有形文化財で、樹齢を重ねた木々に囲まれた美しい建物です。とても快く声が共鳴します。この恵まれた環境で、学生たちが日本語を力強く響かせて発言できる姿勢、呼吸、構音のための身体コンディショニングも同時に実践しています。



### 今後の展望

俳句と能は、現在まで継承されてきた伝統文化です。これらに共通するのは、日本語の繊細な感覚を磨き、時代を超える普遍的なメッセージを他者に発信していることです。俳人や能楽師の健康寿命が長い秘訣は何なのか、とても興味を惹かれます。身体技法と言葉の力を探究し、現代の私たちに有用な特質を見出して、実践に役立てることを企図しています。



### 社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

機能解剖学を活かしたボディメソッドで快適な身体使いを提案するワークショップ、豊かな響きのある日本語の構音を探究するクラス、日本文化に親しむ講座を提供したいと思っています。《これまでの実績》大学の公開講座コーディネーター「声とことばの表現講座一声とからだと想像力をつかう」「能を楽しむ」「日本人の身体と生活『身の処し方』を歴史に学ぶ」「からだのメソッド—立居振舞いの技術—」/美術館でのワークショップ：展示作品から俳句を詠む/高校への出張授業：小さくて大きな俳句の世界/県の文化振興審議会委員





10 人や国の不平等をなくそう

16 平和と公正をすべての人に

国際学科

<b>分野</b>	国際政治学、東アジア国際政治史	
<b>研究テーマ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総力戦と冷戦の比較研究</li> <li>・現代東アジア国際政治史</li> <li>・現代中国政治外交</li> </ul>	
<b>キーワード</b>	総力戦、戦後秩序、現代中国	
<b>所属学会等</b>	日本国際政治学会、アジア政経学会、北東アジア学会、グローバル・ガバナンス学会、中国現代史研究会	
<b>特記事項</b>	—	
URL:		TEL: 028-649-5190
Mail: f-matsu [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp		

研究概要

戦争や危機は多くのばあい、特定の間人や集団にのみその責任を帰すことは難しい。複雑きわまりない現代社会であれば、なおさらである。「世の中のいざごは、悪意や悪だくみよりも、誤解や怠惰によることのほうがはるかに多いらしいのだ」（ゲーテ「若きウェルテルの悩み」）とすれば、過去のひとびとは情報、時間、手段いずれをも制約されるなかで、どのような決断を迫られたのか。この問題に正面から取り組むことが過去の悲劇を理解する正攻法になると考える。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

教育と研究いずれにおいても、以下の三点を指針にしている。

1. 真理を求める研究者にとって、教育とは「産婆役」に近い。教師は生徒の学習を「先導」するものではあるが、その営みはおうおうにして「扇動」に墮する。これでは人は育たない。かつてソクラテスはみずから他者の子供（知恵）を引き出す「産婆」に例えた（プラトン『テアイテトス』）。産婆役にも豊富な知恵は要る。表面的な成果に喜ぶよりも、古典と格闘するなど地道な勉強だけがその源泉をもたらしてくれると考える。
2. 研究対象からほどよい距離をおく。「ミネルヴァの梟は夕暮れに飛び立つ」のだとすれば、ものごとがさかんうちにその何たるかを見きわめることは至難であろう。人里離れた「魔の山」（トーマス・マン）にこもれば、かえって人間や社会の深遠なすがたに気づくということもあるのではないか。
3. 科学的説明を精緻化する技術よりも、ものごとの解釈をふかめることに重きをおく。かつて軍人クラウゼヴィッツは「政治は知性であり、戦争はその道具にすぎない、決してその逆ではない」と説いた。日ごと軍事技術が転変する近代にあってもなお、軍事問題はその道の専門家（軍人）ではなく、総体としての知恵を身につけた政治家に託すべきだとした。またロシア文学にも精通した学識豊かな米外交官G.F.ケナンは「国際問題にあたるさい、われわれは技師ではなく庭師たるべきである」ことを肝に銘じた。高度な科学技術で武装した集団がたがいに関係を織りなす国際政治の舞台にあってもなお、技師に転じることなく、あくまでも人文的な知恵を頼りにせよとの謂いである。国際政治のできごとを理解する根幹にはその教養がなくてはならない。

今後の展望

20世紀前半までに猛威を振るった「総力戦」がその後半にさしかかって非公式なものに転じるありようを見定めながら、東アジア地域がその大きな転換のなかでどのような国際政治の基礎を形作っていくのかを史的過程をふまえて考えていきたい。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

北東アジア学会、アジア政経学会では編集委員会、グローバル・ガバナンス学会では企画委員会に携わっている。



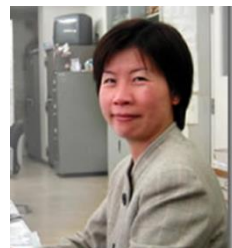


## 国際学科

**分野** 社会学（地域社会学）

**研究テーマ** ・タイの開発と地域社会  
・タイの地域住民組織

**キーワード** 社会学（地域社会学），タイの社会と文化，地域住民組織



**所属学会等** 日本社会学会、日本労働社会学会

**特記事項** —

URL: [malee\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:malee[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)  
Mail: malee[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5173

### 研究概要

私の母国であるタイの首都バンコクおよび地方都市での地域調査を行っています。タイは日系企業の進出などにより工業化が進み、バンコクと農村の地域格差が拡大しています。そして農村では貧困、バンコクでは人口集中による都市問題が発生しています。農村出身者の多くはバンコクでスラムを形成し、劣悪な居住環境での生活を強いられています。そうした恵まれない条件におかれた人々が自分たちの生活を守り、改善していくために結成するのが地域住民組織です。私は、この実態調査をとおして、住民の権利と自治を保障する望ましい社会開発のあり方を考えています。

### 教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

私の卒論ゼミでは、海外調査を行う学生がほとんどです。文献研究、調査計画の立案、現地調査の実施、卒論の作成という一連の作業をとおして、社会調査の実践的な能力を養成することを目的のひとつとしてきました。1980年代後半以降、急激な工業化・都市化を経験し、大きく変容しつつあるタイの都市を対象とし、社会学の立場から、貧困、教育、ジェンダーなどの社会問題や地域社会の実態に関する調査を行う研究がおもなものです。海外調査にはさまざまな困難が待ち受けていますが、これを乗り越えていけるよう、全力でサポートしています。



タイ語関連科目では、タイ語による聞き取りやコミュニケーション能力を身につけることを目標として、短期集中訓練を行い、小人数グループでの訓練をとおして、日常生活の簡単な会話能力を養成しています。具体的には、タイ料理をともにつくることをとおして、タイの文化やタイ人の生活習慣、思考について話し合っています。その際、メニューの決定、材料の買い出し、料理、会食までをできる限りタイ語の会話で行うこととしています。

### 今後の展望

これまでどおり地道に研究に取り組むとともに、学生の関心と主体性を尊重した教育活動に努めたいと思います。

### 社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

高校での出前講座をはじめ、依頼があれば、タイ語・タイ社会についての講座・講演などに対応しています。



**分野** 言語学、外国語教育学

**研究テーマ** ・多言語コミュニケーション  
・言語類型論  
・言語学の哲学

**キーワード** Multilingualism(多言語使用)

**所属学会等** 日本語教育学会、日本認知科学会

**特記事項** コミュニケーション上の必要性に応じて何語でも話します。



URL: <https://www.facebook.com/Yoshidas.Linguistics.Lab>

TEL: 028-649-5239

Mail: [ysd\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:ysd[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

### 研究概要

広報誌UUNow50号をご参照ください。

<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2020e17/html5.html#page=11>



### 教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

広報誌UUNow50号をご参照ください。

<https://web-pamphlet.jp/utsunomiya-u/2020e17/html5.html#page=11>

### 今後の展望

ルソン島北部の日常的に5言語が使われている地域、カンボジア、スリランカなど多言語使用地域で現地調査をして、人のコミュニケーションについてまだわからないこと解明していきたい。

25歳をすぎてから外国語コミュニケーションの楽しさを知った者として、英語など外国語習得について挫折感をもっている生徒・学生を励ましたい。

### 社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

JICA - 国際協力機構 青年海外協力隊事務局 技術専門委員 (日本語教育)



**分野** 米文学

- 研究テーマ**
- ・19世紀米文学研究（小説と詩）
  - ・エスニシティ、階級、地域性
  - ・ナショナリズム、イデオロギー、宗教

**キーワード** アメリカ合衆国, 文学, 19世紀

**所属学会等** 日本アメリカ文学会、日本アメリカ学会、日本英文学会、Melville Society

**特記事項** —



URL: -  
Mail: yone[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5225

**研究概要**

学部時代より大学院まで、アメリカ合衆国の作家ハーマン・メルヴィルの研究をしていました。心理学的アプローチや哲学的アプローチ、歴史学的アプローチなどを取りました。主にメルヴィルの文学と19世紀当時の宗教文化、階級、ナショナリズム、人種主義、実存主義との関係などを扱ってきました。大学に勤めるようになってからは、メルヴィル以外の作家、ホーソン、ディキンソン、ホイットマン、フラー、アーヴィング、クーパー、ウォーナー、ダグラス、ジュエット、クレインといった19世紀の別の作家たちも研究対象にするようになりました。歴史的なアプローチを中心に、時代と文学との関係を探っていますが、テキストの精緻な読みを心がけています。文学は言語芸術だという保守的な前提は維持しています。

**教育・研究活動の紹介** (特徴と強み等)

ここ十数年文学に関心を持つ学生、文学研究をする学生、研究者を目指す学生が減少しました。むしろ幅広く文化を勉強したいという学生が増えています。こうした事情と、所属が国際学部ということもあり、教育活動では自分の専門性を押し付けず、文学部的な教育はしていません。アメリカ合衆国の文化や歴史を幅広く学べるような授業を心がけています。また文学関係の授業でも、内容は入門的にし、歴史や文化、社会問題、国際的な事象などと関連付けて論じるようにしています。大学の学びでは卒業論文がもっとも重要ですが、学生がもっとも関心のある対象やテーマを選んで追求することを一番に推奨しています。借り物のテーマでは実りある卒業論文は書けません。

**今後の展望**

研究では学部生時代より行ってきたメルヴィル研究を中心に、19世紀米文学研究を続けていくつもりです。教育ではアメリカ合衆国の様々な今日的な問題を、多様でかつ歴史的な視点から見ることのできるような授業を心がけていきたいと思っています。指導では学生の自律的な学びをより促進したいと思っています。

**社会貢献等** (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

教員免許状更新講習（英語関連）の担当など。

4 質の高い教育を  
みんなに

5 ジェンダー平等を  
実現しよう

10 人や国の不平等を  
なくそう

16 平和と公正を  
すべての人に

**分野** 文化人類学

**研究テーマ** ・ 幼少から連続的な国際移動を繰り返して育った人々の  
ライフストーリー  
・ 友人関係

**キーワード** ストレンジャー, ライフストーリー, 友人関係

**所属学会等** 日本文化人類学会、日本移民学会

**特記事項** 2022年10月に宇都宮大学に着任しました。



URL: <https://researchmap.jp/lpfabio>

TEL: 028-649-5181

Mail: [lee.perez.fabio\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:lee.perez.fabio[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

### 研究概要

近年では、人の移動は広域化し多様化しただけでなく連続化もしています。たとえば、国籍の異なる両親の間で生まれ、親の仕事の都合で幼少期と青年期をそれぞれ異なる地域で過ごし、成年期には留学をし、就職は様々な地域を転々としながら生きる人々がいます。彼らは、複雑な文化的背景をもって育っています。そんな、幼少期から複雑な国際移動を繰り返して育った人びとを対象に、移動の中に生きる人びとが、移住先で出会った人びととのつながり、特に友人関係にどのような意味付けをしているのかを考えています。

### 教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

教育活動については、自分とは異なる社会、地域や集団の中で生活する人々の生き方について学ぶだけでなく、理解を試みることで、自分の生き方を振り返って自省できる能力を養うよう心掛けています。つまり、異文化を見て自分を見つめ直すということです。そのためには、文化人類学の思考法を身に付け、他者の生き方を文献を通して学ぶだけでなく、実際に自分自身が他者と共に生きることで理解を深めます。自分と考え方や価値観が異なる人々と関わるのは簡単なことではありません。しかし、互いに理解を深め合うことで、共に生きる術を探りたいと思います。

研究活動については、幼少期から複雑な移動を繰り返しながら育った、移動の中に生きる人々をストレンジャーと捉え、彼ら/彼女らの生き方を、ライフストーリーという手法を用いて理解を試みています。

### 今後の展望

今後の展望については、これまで連続的な移動の中で生きる人々が移住先で出会った人々との交友に焦点を当ててきた研究を、友人関係の視点から整理しなおし、疎遠だけど親密な友人の在り方の研究を進めることです。最近では他のトピックやテーマにも着手した研究もしています。たとえば、日本のタコスです。日本には、メキシコには存在しない多様な「タコス」が存在し、原料や調理法も形も違います。そうした多様性から日本のタコスに共通する特徴を調査しています。

### 社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)